

動物科学科酪農部門では9頭の牛を搾乳しています。

「酪農は朝、夕と搾乳しなければならないので、忙しいなあ」

もちろんそれはその通りですが、

**事故もなく、順調に搾乳できていることは**  
**とってもありがたいことです。**

乳を生産するということは、

牛にとってものすごく体に負担のかかる行為です。

ということで、牛の個体管理は、酪農にとって欠かせません。

そのためにも毎月体重の測定をしています。

**牛ごとの餌の量の調節は**

**乳量とこの体重で決まります。**



この日は牛舎外で体重測定を行いました。

2・3年生の専攻生はみんな担当牛が決まっているので、



みんな自分の担当牛の体重を計測します。



すんなり乗ってくれる牛もいれば・・・



しれーっと通過してしまう牛もあります。



でも、全頭測定するまでは終われません。



ぐずる子もいます。



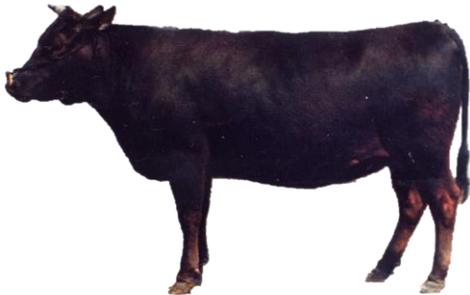
でもちゃんと乗ってくれました。

ところで牛の体重は何 k g キロあるか知っていますか？

乳牛の代表的な品種であるホルスタインは 6 0 0 ~ 7 0 0 k g で、  
近年は大型化が進んでおり、  
岐阜農林高校でいちばん大きい牛は 9 0 0 k g ある牛もいます。

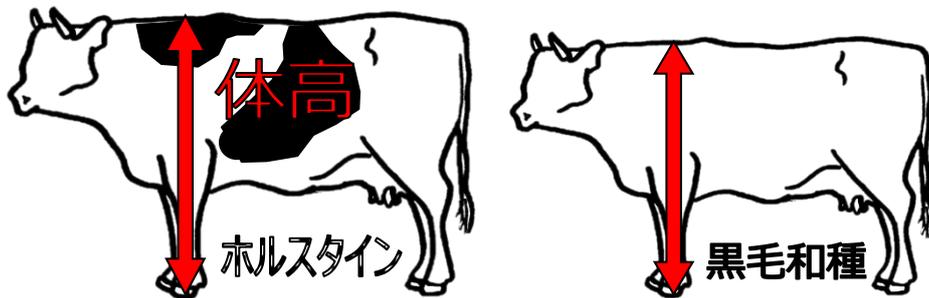
では肉牛はもっと大きいのでしょうか？

和牛の代表的な品種、黒毛和種の雌の肥育牛は 7 0 0 k g



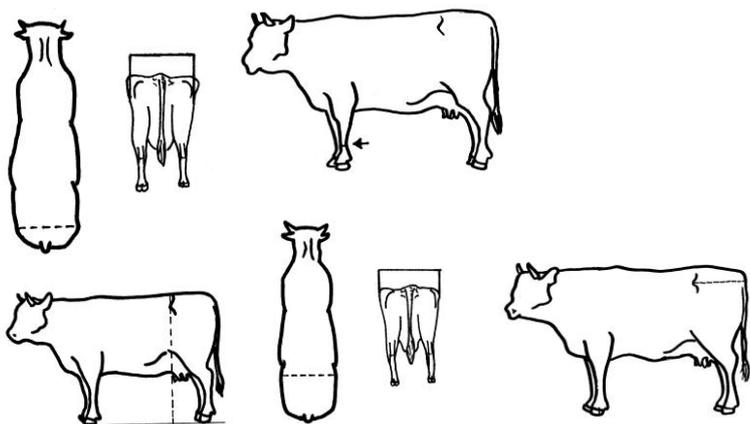
しかしホルスタインが 1 4 0 c m、黒毛和種が 1 3 0 c m 弱ですので、

3 0 か月齢 雌 標準発育値



ホルスタインはひとまわり（ふたまわり？）大きいです。  
ホルスタインを見慣れていると、黒毛和種はコンパクトで、  
何だか可愛く見えます。

ちなみに、体高や体重以外にも計測場所はたくさんあります。



いくつわかりますか？

一頭一頭を大切に飼養しています。



乳房の形、状態によって、一頭一頭の搾乳時に気を付けることも異なります。（説明中）





「しっかりやってくれんと困るで」（シヨコラ号）

生徒と牛は相思相愛、全力で実習に取り組んでいます。

（教員も）

すぐまた会いましょう。